

# 夫木和歌抄

巻拾

和書門			
類	號	函	架
三	一	七	三
七	一	六	八
冊	架	函	號

内閣文庫		
和	書	類
二	三	八
一	三	八
函	冊	架
一	七	八

内閣文庫		
番號	和	28388
冊數	37	(11)
函號	201	1



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり



史本和歌抄卷之第十

秋部一

歌

立秋

初秋

踐暑

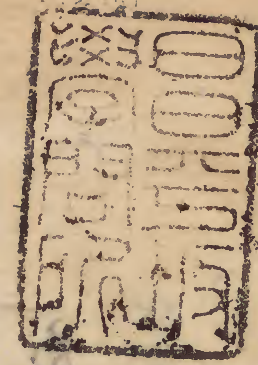
七夕

立秋

建永三年九月十三日奉命合秋部

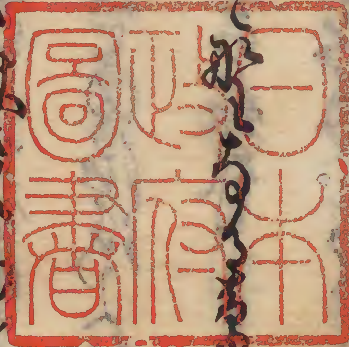


後九年奉内大臣



秋部一 秋部一 秋部一 秋部一 秋部一 秋部一 秋部一 秋部一 秋部一 秋部一

後九年奉内大臣



秋部一 秋部一 秋部一 秋部一 秋部一 秋部一 秋部一 秋部一 秋部一 秋部一

後九年奉内大臣

秋部一 秋部一 秋部一 秋部一 秋部一 秋部一 秋部一 秋部一 秋部一 秋部一

後九年奉内大臣

秋部一 秋部一 秋部一 秋部一 秋部一 秋部一 秋部一 秋部一 秋部一 秋部一



久安百首之狀

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

Handwritten text in cursive script, likely a signature or name.

信正行書

Handwritten text in cursive script.

可  
百箇の御使  
率建法師

Handwritten text in cursive script.

嘉禄三年一白首の御民の内殿

Handwritten text in cursive script.

御入の御使百首の御使

Handwritten text in cursive script.

御入の御使百首の御使

Handwritten text in cursive script.

御入の御使百首の御使

Handwritten text in cursive script.

御入の御使百首の御使

Handwritten text in cursive script.

御入の御使百首の御使

Handwritten text in cursive script.

御入の御使百首の御使

Handwritten text in cursive script.

暁路より秋もさうらんの方からさうらるるあり流るれ

秋の門院母夜叉

秋の門院母夜叉の御成敗の御成敗の御成敗

秋の門院母夜叉

秋の門院母夜叉の御成敗の御成敗の御成敗

秋の門院母夜叉の御成敗の御成敗の御成敗

秋の門院母夜叉

秋の門院母夜叉の御成敗の御成敗の御成敗

秋の門院母夜叉

秋の門院母夜叉の御成敗の御成敗の御成敗

秋の門院母夜叉

秋の門院母夜叉の御成敗の御成敗の御成敗

秋の門院母夜叉

秋の門院母夜叉の御成敗の御成敗の御成敗

秋の門院母夜叉

秋の門院母夜叉の御成敗の御成敗の御成敗

秋の門院母夜叉

秋の門院母夜叉の御成敗の御成敗の御成敗

秋の門院母夜叉

秋の門院母夜叉の御成敗の御成敗の御成敗

又治六十年秋百三秋  
皇太后御宇  
秋の月秋の月秋の月  
秋の月秋の月秋の月  
秋の月秋の月秋の月

秋の月秋の月秋の月  
秋の月秋の月秋の月  
秋の月秋の月秋の月

百三秋

秋の月秋の月

秋の月秋の月秋の月  
秋の月秋の月秋の月  
秋の月秋の月秋の月

秋の月秋の月秋の月  
秋の月秋の月秋の月  
秋の月秋の月秋の月

秋の月秋の月秋の月  
秋の月秋の月秋の月  
秋の月秋の月秋の月

秋の月秋の月秋の月  
秋の月秋の月秋の月  
秋の月秋の月秋の月

秋の月秋の月秋の月  
秋の月秋の月秋の月  
秋の月秋の月秋の月

秋の月秋の月秋の月  
秋の月秋の月秋の月  
秋の月秋の月秋の月

秋の月秋の月秋の月  
秋の月秋の月秋の月  
秋の月秋の月秋の月

初秋





光嘉院入るる歌五十五首

あはれりしむのむらさき打さしむらさきけりしむらさき

秋草

後宮御侍

新六

あはれりしむのむらさき打さしむらさきけりしむらさき

秋草

心之信者

新七

あはれりしむのむらさき打さしむらさきけりしむらさき

秋草

伊女

あはれりしむのむらさき打さしむらさきけりしむらさき

前中納言

あはれりしむのむらさき打さしむらさきけりしむらさき

建久元年

前中納言

あはれりしむのむらさき打さしむらさきけりしむらさき

治平元年

武子内親王

あはれりしむのむらさき打さしむらさきけりしむらさき

あはれりしむのむらさき打さしむらさきけりしむらさき

あはれりしむのむらさき打さしむらさきけりしむらさき

千五百番

あはれりしむのむらさき打さしむらさきけりしむらさき

後二位

あはれりしむのむらさき打さしむらさきけりしむらさき

御書 御書 御書

御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書

御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書

御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書

御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書

御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書

御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書

御書 御書

御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書

御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書

御書 御書

御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書

御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書

御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書

御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書

御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書

御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書

御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書

御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書

御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書 御書



三條院御波

と白月の光はのたまふよりみ成つらる秋の光る家

又永十五年毎日こ中民アツカ家

りる言二葉さつて舟のさりりし秋とつらるる月

三井和舟人 鴨吉明

ふひゆきの月ゆらうはすもももらうらうもるこ初秋の

ふめ百首あふ合 前中納言定家

りる言二葉さつて舟のさりりし秋とつらるる月

秋二位政隆

秋のさめりみちのさつて舟のさりりし秋とつらるる月

後二位政隆

大川ゆき門とどしとばつはのりつとゆり秋やさめらん

後二位政隆

秋のさめりみちのさつて舟のさりりし秋とつらるる月

後二位政隆

秋のさめりみちのさつて舟のさりりし秋とつらるる月

秋中

万十五 秋のさめりみちのさつて舟のさりりし秋とつらるる月

十部百首和舟 後二位政隆

時人の蝶乃相衣ぬき捨てし秋行もひくせしるる

秋の景

下草の上の露をそそぐ秋のうららかにさか木よひのさき

南水百首奇合

うらと糸河ぬぬりの秋されば夕露としひくしの

新由院入る二首親王家みす首

後二首歌譜々

秋門の吹くうらうら片思のせむれぬゆもとさうらり

秋葉集初秋凡

民々の雅也

うらうら初秋凡のうらうらと一かもしとあうるまはうら

遠き又は毎日そ初秋 國々の内歌

秋やうらうら月やうらうらとあふのあひの秘えし凡そ

秋暑

古百首奇合秋暑

後二首秋暑

うらうらうらうら秋のうらうら川さうらうらとあふれぬ柳陰うら

中支指たを秋のうら

秋代國さうらうらとあふれぬ秋のうら

中納言は秋のうら

秋さうらうら夕月さうらうらとあふれぬ秋のうら

秋のうらうら

秋さうらうら夕月さうらうらとあふれぬ秋のうら

Handwritten text, likely a title or header, possibly reading "定建法師" (Dōken Hōshi).

あまのついでにぬくぬくとれん袖よまらうく萩乃之風

Handwritten text, possibly a name or title, possibly reading "法務取帳" (Hōmoku Torichō).

あま月のてる日やうけとせしえんきこくし月のかみ

Handwritten text, possibly a name or title, possibly reading "後札の旨" (Goji no Shiji).

秋まへ凡ひやうけの書もあらねあつたあふじのりか

セタ

あまのついでにぬくぬくとれん袖よまらうく萩乃之風

りあひのきりひうりとぬきのきりあふじのりか

色紙取寄

あまのついでにぬくぬくとれん袖よまらうく萩乃之風

あまのついでにぬくぬくとれん袖よまらうく萩乃之風

あまのついでにぬくぬくとれん袖よまらうく萩乃之風

あまのついでにぬくぬくとれん袖よまらうく萩乃之風

あまのついでにぬくぬくとれん袖よまらうく萩乃之風

あまのついでにぬくぬくとれん袖よまらうく萩乃之風

あまのついでにぬくぬくとれん袖よまらうく萩乃之風

あまのついでにぬくぬくとれん袖よまらうく萩乃之風

あまのついでにぬくぬくとれん袖よまらうく萩乃之風

法務取帳

きりぎりし早おひ乃をせむるを林のうへよりとら

ちりのを風のたよとてこのあつりよひくつらこの

きりぎりし早おひ乃をせむるを林のうへよりとら

ちりのを風のたよとてこのあつりよひくつらこの

きりぎりし早おひ乃をせむるを林のうへよりとら

ちりのを風のたよとてこのあつりよひくつらこの

きりぎりし早おひ乃をせむるを林のうへよりとら

ちりのを風のたよとてこのあつりよひくつらこの

きりぎりし早おひ乃をせむるを林のうへよりとら

ちりのを風のたよとてこのあつりよひくつらこの

きりぎりし早おひ乃をせむるを林のうへよりとら

ちりのを風のたよとてこのあつりよひくつらこの

きりぎりし早おひ乃をせむるを林のうへよりとら

ちりのを風のたよとてこのあつりよひくつらこの

きりぎりし早おひ乃をせむるを林のうへよりとら

ちりのを風のたよとてこのあつりよひくつらこの

きりぎりし早おひ乃をせむるを林のうへよりとら

ちりのを風のたよとてこのあつりよひくつらこの

きりぎりし早おひ乃をせむるを林のうへよりとら

ちりのを風のたよとてこのあつりよひくつらこの

此書や書并の巻一と云ふものさめつらなる早合の宗

え巧真

今及る後書

巻の面一ひそしむるものひと書并よりす新紙

あえと年一頁首七々 巻終のおお

かふるこの袖ぬくどうしがうさのりつたりか天乃川

海乃多事奇事川七々

流よとらうしてとらふ川乃みたるあり早合のり

建永八年百箇字の合 信実約長

とまひそあましとらひあひのあさよとみるそいひ

七々らん

他何人

早あひのそこのりわあめんさうとらうとらうと林の海

建永七年七月す家持信実と

をうつこのそとらるりふとのあまのそとらうとそあ

家業七々中

いひのらに月の中といひとらるるりか入海する

家業七々

信実約長

七々やとのそとらあめんやけるおの申れと

日七々言志

七々のそとらうとらあめんとのあまもこれい

又後約長すらるる書 後二信実約長





萬代 御不承 御不承

萬代 御不承 御不承

同 御不承 御不承

萬九 御不承 御不承

御不承 御不承

御不承 御不承

萬十 御不承 御不承

御不承 御不承

萬十七 御不承 御不承

御不承 御不承

御不承 御不承

御不承 御不承

萬代 御不承 御不承

御不承 御不承

御不承 御不承

御不承 御不承

御不承 御不承

御不承 御不承

御不承 御不承

延壽六年三月子院の玉女令

思ひゆく心はさしほくしにたゆみちたれとれうらむらふ

たふさくち百枝 (Pommes) の

ちひさくやうれきんしんじのそ川芳立海人く

家業七つゆふ 酒初と人

天海くみのせむはるしんじのそ川芳立海人く

家業 和泉武了

かろひんをさうたすし七つゆふあまのりつたのしんじのそ川

ひとひさしむらじのそ川七つゆふにうしそむらじのそ川

家業 和泉武了

あらくすし合のそ川七つゆふにうしそむらじのそ川

寛和のそ川七月百条系院明徳表合

魚燈

かろひんをさうたすし七つゆふあまのりつたのしんじのそ川

終意のそ川

内の方よりすそあまのりつたのしんじのそ川七つゆふあまのりつたのしんじのそ川

かろひんをさうたすし七つゆふあまのりつたのしんじのそ川

ゆひてらそしんじのそ川七つゆふあまのりつたのしんじのそ川

かろひんをさうたすし七つゆふあまのりつたのしんじのそ川







ちりまのりのおまじりけりてらるるものなりわいの

西暦二年百首 巻終あり

七のりやいしんあらんちんあらんしんあらん

あまの浦歌

あまの浦のあまの浦のあまの浦のあまの浦の

あまの浦のあまの浦のあまの浦のあまの浦の

あまの浦のあまの浦のあまの浦のあまの浦の

あまの浦のあまの浦のあまの浦のあまの浦の

あまの浦のあまの浦のあまの浦のあまの浦の

あまの浦のあまの浦のあまの浦のあまの浦の

あまの浦のあまの浦のあまの浦のあまの浦の

あまの浦のあまの浦のあまの浦のあまの浦の

あまの浦のあまの浦のあまの浦のあまの浦の

あまの浦のあまの浦のあまの浦のあまの浦の

あまの浦のあまの浦のあまの浦のあまの浦の

あまの浦のあまの浦のあまの浦のあまの浦の

あまの浦のあまの浦のあまの浦のあまの浦の

あまの浦のあまの浦のあまの浦のあまの浦の

あまの浦のあまの浦のあまの浦のあまの浦の





一花よこそあひしけさかみとあそむる人の恨そちうん

陽川院の何百とせむ 弘仲の巻

しんがりのあひさかちのあひさかちのあひさかちのあひさかち

拾中初に輝し時々

ちうのあひさかちのあひさかちのあひさかちのあひさかち

えのあひさかちのあひさかちのあひさかちのあひさかち

拾中初に輝し時々

ちうのあひさかちのあひさかちのあひさかちのあひさかち

ちうのあひさかちのあひさかちのあひさかちのあひさかち

ちうのあひさかちのあひさかちのあひさかちのあひさかち

ちうのあひさかちのあひさかちのあひさかちのあひさかち

拾中初に輝し時々

ちうのあひさかちのあひさかちのあひさかちのあひさかち

ちうのあひさかちのあひさかちのあひさかちのあひさかち

ちうのあひさかちのあひさかちのあひさかちのあひさかち

拾中初に輝し時々

ちうのあひさかちのあひさかちのあひさかちのあひさかち

ちうのあひさかちのあひさかちのあひさかちのあひさかち

ちうのあひさかちのあひさかちのあひさかちのあひさかち

ちうのあひさかちのあひさかちのあひさかちのあひさかち

ちうのあひさかちのあひさかちのあひさかちのあひさかち

氏中花初え

夏星の初よりけりをうつつさうひのあやと川浪

歌集七クム代

建礼門院在系太史

せうよりわやうすうんぬんたはれとるけりあ忠の夜ハ

やうやぶにさしあものこわいひのあよりうつさう

こゑのあやのさうりしとさうざりあ家のこゑぬも早よ

永延二の七月七日貴院の御歌の合は馬

うま

さうよりわやうすうんぬんたはれとるけりあ忠の夜ハ

永延院入及二系就と家五十首

法橋院歌

約るさうりしとさうざりあ家のこゑぬも早よ

百そ曲奇

永徳院歌

さうよりわやうすうんぬんたはれとるけりあ忠の夜ハ

れ捕歌の合七ク

白太君文を文後成々

さうよりわやうすうんぬんたはれとるけりあ忠の夜ハ

正治二年百そ

源順光

さうよりわやうすうんぬんたはれとるけりあ忠の夜ハ

あえん二年百そ七ク

入友あ太政大臣

さうよりわやうすうんぬんたはれとるけりあ忠の夜ハ

弘安三年 巻一 下 二首

安永の虎口糸

ゆらり此月も入るわしの川やその流るゝもやまらん

遠保四年 百首

前中納言定家々

天海あつらひつらもろろひて月のうらそとてし出れ

同日二年 巻七 又 二首

たのこもあつらひつらもろろひて月のうらそとてし出れ

千首 一

茂家 二首

天川秋月しるしあつらひつらもろろひて月のうらそとてし出れ

と海なごもあつらひつらもろろひて月のうらそとてし出れ

遠保三年 毎日 二首

たのこあつらひつらもろろひて月のうらそとてし出れ

正徳三年 毎日 二首

たのこあつらひつらもろろひて月のうらそとてし出れ

文永三年 毎日 二首

たのこあつらひつらもろろひて月のうらそとてし出れ

文永四年 毎日 二首

たのこあつらひつらもろろひて月のうらそとてし出れ

吉原 二首

たのこあつらひつらもろろひて月のうらそとてし出れ

弘安三年 掃部頭 安部院 四葉

七人のついでに衣さあつて天川浪走りうがら

百首中 納言忠政 女母

系内お命

みぢとるまればとるらんせうのりれをせう納り

秋安中 正三位 秋安

て海秋のあこせの浪のうへよみらのをうへみわ

秋中 秋流 百首 後九葉内 女母

せうもつて海原よりうへひちいけりみらぬ秋のつ

秋系 七クメ 後二後 秋流

とらとて人のいそごもせうの秋のあつこのうら

秋安 元年 百首 後九葉内 女母

天川をそみうへせうよとれぬのうらみらん

秋安 十首 秋安院 女母

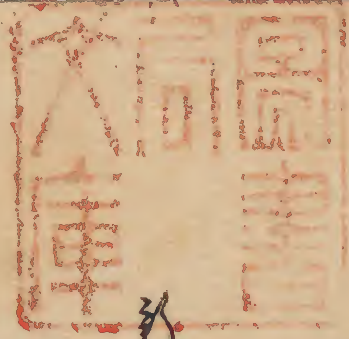
せうよらんけりてわらうさううあつぬ別

建保三年 秋流 七クメ 女母 弟中納言 秋安

て門あつて心ももつては道秋の七日の年の秋

秋系 秋安院 女母

やののうらとれせういさうにせうりう



弘安元年百七十五  
後九条門左衛門

猪の川舟をらぬふつこのよみられとつり浪やうら  
ぬこのやせぬつりや早急のたの別めらひさうん

古板

後九条門左衛門

第六

こころをいふこのあはれつまつんせうつられあつり  
一字百首

一字百首

前中納言定家

長月(おとづ)の月のおもひをてらつらつり合の

